

科 目 医療安全管理学 (Healthcare Safety Management)

担当教員 横田 浩充

【1】 授業の目的と学習成果〔教育目標・具体的な項目〕

医療の高度化と業務量の増加に伴い、医療スタッフの些細な安全管理ミスなどが患者への重大な医療過誤を招くことがある。患者に安全・安心な医療を提供するためには、医療事故や医療過誤について、その発生原因から対策までの一連を理解しておくことが不可欠である。本講義では、医療業務全般における医療安全について、医療事故の発生原因とその分析、対策法まで理論的かつ実践的な内容を学修し、理解することを目的とする。

<教育目標>

- (1) 十分な知識・技能と、科学的な探究心・思考力・批判力をもつ
- (2) 自ら主体的に学ぶ力をもつ
- (3) 他者と協力して課題を解決する力をもつ

<具体的な項目>

関連する分野における概括的な基礎知識・基本技能 (1)
根拠に基づいて科学的な推論を行い、結論を導く能力 (1)
コミュニケーション能力・リーダーシップ、外国語を含む文章の読み書き能力 (3)

【2】 授業計画

No.	内 容
1	医療安全管理の定義とその意義 リスクマネジメント管理
2	医療安全管理総論 医療倫理、疑義照会、危険予知訓練、原因解析
3	医療事故、医療過誤、法的責任について 医療事故、医療過誤の種類と事例、法的責任
4	医療安全管理各論 検体検査部門・生体検査部門の事例・管理 (院内感染・採取検体の破損・遺失・採血部門・心電図負荷検査等を含む)
5	微生物学的検査等(皮膚表在組織病変部の膿、丘疹、水泡、膿泡、びらん、 鱗屑、粘膜、毛髪、爪等)における検体採取に必要な知識
6	微生物学的検査等(インフルエンザ等)における検体採取に必要な知識 (鼻腔拭い液、咽頭拭い液等の採取法について)
7	微生物学的検査等(インフルエンザ等)における検体採取に必要な知識 (鼻咽頭拭い液、鼻腔吸引液等の採取法について)
8	医療安全管理とその実践 医療安全を考慮した検体採取に必要な知識・技能
9	微生物学的検査等(皮膚表在組織病変部におけるウイルス、細菌、真菌、 スピロヘータ、寄生虫検査)における検体採取に必要な技能
10	微生物学的検査等(皮膚表在組織病変部の膿、丘疹、水泡、膿泡、びらん、 鱗屑、粘膜、毛髪、爪等)における検体採取に必要な技能
11	微生物学的検査等(インフルエンザ等)における検体採取に必要な技能 (鼻腔拭い液等の採取のシミュレーション)
12	微生物学的検査等(インフルエンザ等)における検体採取に必要な技能 (鼻咽頭拭い液、咽頭拭い液等の採取のシミュレーション)
13	微生物学的検査等(インフルエンザ等)における検体採取に必要な技能 (鼻腔吸引液等の採取のシミュレーション)
14	検体採取及び味覚・嗅覚検査のシミュレーション 舌圧子及び綿棒を使用した実習を行う
15	微生物学的検査等のシミュレーション 微生物学的検査等の検体採取について、綿棒を使用して実習を行う

【3】 到達目標

- (1) 医療安全管理の定義と意義、医療事故と医療過誤の違いについて説明できる。
- (2) リスクマネジメントの手法について概説できる。
- (3) 院内感染対策について事例を挙げて説明できる。
- (4) 医療安全管理の全般について臨床検査技師の責任及び業務の範囲を理解し、感染管理及び医療安全に配慮して、適切に検体採取ができる能力を身につける。
- (5) 検体採取に伴う危険因子を認識・理解し、合併症の発生時に適切な対処ができる能力を身につける。

【4】 授業概要

安全・安心な医療を提供するために、医療施設内で発生する医療事故や医療過誤の事例とその原因分析、その対処方法を学習し、事故防止に努めるために必要な基礎知識を講義、実習する。

【5】 準備学習(予習・復習)および必要時間

講義前に教科書、配付資料について1時間の予習を行うこと。講義後は復習を1時間行うこと。

【6】 教科書・参考書・参考資料

教科書：最新臨床検査学講座「医療安全管理学」医歯薬出版

【7】 評価方法およびフィードバック

知識確認の確認小テスト（50%）、定期試験（50%）にて評価する。各試験後に解説行うので復習のこと。

【8】 オフィスアワー

月、火、木曜日の3限、4限

【9】 関連科目

〔予め学んでおくとい科目〕

臨床微生物学

〔この科目に続く内容の科目〕

臨床検査機器総論

【10】 その他

日常から医療安全に関する記事、報道、放送を注視し関心を持つこと